

～優秀作品の 出品者を表彰～



「小さな親切」のつどいの席上、令和6年度の作文・ポスターコンクールで優秀な成績を収めた皆さんに賞状と記念品が贈られました。作文コンクールは51回、ポスターコンクールは46回を数え、これまでも素晴らしい作品が数多く発表されてきました。



米沢「小さな親切」の会 会報

第 57 号

発行 米沢「小さな親切」の会
事務局 米沢市教育委員会
社会教育文化課
TEL 0238-21-6111

「小さな親切」運動を みんなの力で広げよう



米沢「小さな親切」の会

会長 種村 信次

年明けから落ち着いた天候となり穏やかな新年を迎えましたが、トランプ新大統領による過激な政策が何をもたらすのか不安な幕明けとなりました。

日頃より「小さな親切」運動に対し、市はじめ関係各位、並びに会員の皆様には変わらぬご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私たちが今直面している課題は、活動を支える役員の方々の高齢化と共にメンバーが減少し、後継者が確保できていないことです。このことは当会だけでなく県内の他の会でも深刻な状況におかれています。この危機をどう乗り越えていくかが喫緊の課題となっています。

新年度は規約改正を含めて体制づくりを真剣に進めたいと考えています。役員、会員の皆様の関連なご意見を頂戴したいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、令和6年度の「小さな親切」運動は、多くの関係者のお支えを受けながら、例年通り活発に活動を行ってまいりました。

恒例の作文・ポスターコンクールについて、まず作文は、小中学校合わせて119点の応募がありました。その中から優秀作品24点を全国コンクールに出品し、北部小1年生安部

樹さんの「ありがとぅのじゃがいも」がなんと「小さな親切」運動本部賞を獲得しました。これは全体の第3位の賞であり、心から拍手を送りたいと思います。実はそれだけでなく二中1年の海原匡登さんが特別優秀賞を獲得したほか、四中1年の今岡あいさんと五中3年の伊藤杏音さんが入選となりました。合わせて4点が入賞したのは近年にないことで大変うれしいことでもあります。また、ポスターについては、同じく133点の応募があり、その中から優秀作品を「ナセBA」展示ブースに展示し、大変好評でした。

例年通り最優秀作文は作文集に掲載し、ポスターは優秀作品20点を載せたカレンダーを作成し、小中学校、関係各位に配布いたしました。

「小さな親切」実行章の表彰は例年になく少ない表彰となり、僅か2件に止まりました。警察署をはじめ皆様からのご推薦を切にお願い致したく存じます。

第26回の「米沢警察署と小さな親切を語る会」は、例年通り開催し、署長講話の後、有意義な意見を取り交わすことができました。

終りに改めて関係の皆様へ感謝とご協力をお願いを申し上げご挨拶いたします。



作文審査風景



ポスター展開幕式

9月

作文・ポスターコンクール

今年、小中学校から作文119点、ポスター133点の応募がありました。作文は、最優秀・優秀作品24点選ばれ、その中から、全国コンクールで4点が入選となりました。特に今年は、本部賞と特別優秀賞の作品もあり、素晴らしい成績でした。また、ポスターでは、特選と金賞の作品50点がナセBAで10月1日から10月6日まで、また、特選作品が、米沢信用金庫ロビーにて11月5日から11月15日まで展示され、好評を博しました。

7月7日 7月



クリーン作戦参加の皆様

7月7日(日)、松川河川敷で行われた「きれいな川で住みよいふるさと運動」に今年も参加しました。その後、当会独自で観光客を「親切な心でもてなそう」という心で松が岬公園の清掃活動に取り組みました。協力企業から多数の参加者も得ることができ、さわやかな朝のひとときとなりました。

第11回クリーン作戦

米沢「小さな親切」の会 この一年

4月 (2024年)



種村会長挨拶

令和6年度の総会は4月26日(金)ホテルモントビユー米沢で開催されました。種村信次会長の挨拶と近藤洋介市長、大場恵子県本部事務局次長の来賓祝辞に続き、高齢女性を保護された遠藤陽様と高齢男性を保護された高橋美里様に会長から

実行章が伝達されました。なお、2件とも米沢警察署から推薦されたものです。

(4月26日)

第52回総会

今年度新たに山形県本部より「あいさつ運動推進学校」に米沢市立第七中学校(地主忠亮校長、生徒数221名)が指定されました。また、本会より「小さな親切」運動実践協力校に米沢市立南原小学校(高野浩男校長、児童数114名)が委嘱されました。会長から2校に活動奨励金が贈呈され、各校の校長と生徒会、児童会役員が取組表明を行いました。議事後、設楽由加利氏(市立米沢図書館館長)を講師にお迎えし、「絵本で心豊かに」と題して、子どもたちは絵本が大好きで、特に昔話の不思議な世界を受け入れ、困難を乗り越え、希望や生きる力を学んでいることなどについてお聞きしました。



講師 設楽由加利氏



推進校・協力校に奨励金を贈呈

令和6年度 第49回全国「小さな親切」作文コンクール 「小さな親切」運動本部賞



ありがとうのじゃがいも

米沢市立北部小学校
一年 安部 樹

「ごっつおさまな、おしうしな。」ほくのとなりのうちです。ほくのとなりのおじいちゃんとおばあちゃんにいわれてうれしかったことばです。ほくはそのときころがぼかぼかとしてきました。

ほくが「ねんせいになった五がつに、やまのちかくにあるはたけをかしてもらって、ほくとおとうさんとおかあさんといもうととおとうのかぞくみんなじゃがいもをそだてることにしました。はたけをたがやしたり、いちりんしゃでひりようをはこんだりとたくさんのおうをだしてはたらいて、たねいもを二十こうえました。

す。じゃがいもをほってまっすぐにあおきさんのいえにいつて「おじいちゃん、おばあちゃん。」とよびました。いつものありがとうのきもちをほくはじゃがいもにこめてわたしました。あおきさんもほくのかぞくもみんなにこにこわらっていました。ほくはちよつとてれくさかったけれど、いっぱいあせをかいてつくったじゃがいもをよろこんでもらえてほんとうにうれしかったです。

なつやすみの八がつ、いよいよじゃがいものしゅうかくのひ、みんなではやおきをしてはたけにむかいました。さつそく、つちのなかをさがすとたくさんじゃがいもがかくれていました。ほりのこし

のないうちにむちゅうになつてつちをかきわけました。てもふくもつちだらけ、がんばってほつたじゃがいもはおおきなはこにいれてふたつぶんになりました。こんなにくさんしゅうかくできておどろきました。

おとうさんが、「とれたてのじゃがいもをみんなにたべてほしいね。」といったときにほくは、あおきさんのおじいちゃんとおばあちゃんのかおがおもいのかびました。ふたりはほくがここにひっこしてきたときからまいにちこえをかけてくれます。「げんきか、きょうもたのしかったか。」とおじいちゃん。あついとともあめがふつたときもほくがいえをしゅつぱつするじかんになると、わらって「いつてらっしゃいね。」とてをふつてみていくくれるおばあちゃん。やさしくしてくるあおきさんのおかげでほくはいつもあんしんしています。

令和6年度 第49回全国「小さな親切」作文コンクール 特別優秀賞



親切は人の関係の始まり

米沢市立第二中学校
一年 海原 匡登

「台湾に転勤することになったよ。」

職員さんがたくさん集まって、入国手続きを全てやってくれました。三週間の隔離後、町に出てまたびつくりしました。買い物支払いをしていく時にお店の人が言っていることがわからずとまどっている、列の後ろの人達が通訳したり、身ぶり手ぶりで教えてくれるのです。レジが進まないことに怒るどころか、みんなが助けてくれることが何度もありました。

台湾では日本人は色々な面で本当に親切にしてもらえます。日本人が震災の時には台湾全土からすごい額の寄付金が集まります。日本人は台湾人の優しさに慣れすぎてしまいうるようになりますが、小学校の卒業式で日台交流協会の人が祝辞でこうおっしゃいました。

でも空港に着いてすぐ台湾人の温かさに気付きました。当時はコロナで県外に出ることも控えていた頃なので、空港はガラガラでした。言葉がわからないところで、コロナや引越しの手続きなどで困り果てていた僕達家族に空港の

「感謝(ありがと) 拝拝(バイバイ)」と言います。温かくて良い文化だなと思いました。お母さんは、「大ざっぱでおおらかで温かい台湾の人達は昭和の日本人の思い出すわ。」と何度も言っていました。

中国語は難しく習得することが出来なかったけれど、僕は台湾で学びました。滞在中の三年半で受けたたくさんの小さな親切をいつか僕が返せるように、そして日本と台湾の架け橋になれるように、これからどんな色んな経験をして、いつかまた台湾に行きたいと思っています。



「小さな親切」実行者をご推薦ください!

私たちの身近にいる町の「親切さん」に全国本部より『実行章』を贈呈しています。運動発足以来、全国で600万人が受章されています。ぜひ「親切さん」の情報をお寄せください。



〈今年度の受章者(2名)〉

米沢養護学校高等部 1年 遠藤 陽 様
NDソフトウエア株式会社 高橋 美里 様

問い合わせ先 ☎21-6111
米沢市教育委員会 社会教育文化課

第26回米沢警察署と「小さな親切」を語る会

2月14日

米沢警察署長の桃井義典様より「特殊詐欺の現状と被害防止対策」について講話をいただきました。次々と新たな手口の詐欺が出てきていること、市内の特殊詐欺認知数や被害金額が思っていた以上に多いことが分かりました。被害防止の取組や犯行に加担させないための対策等についても詳しく教えていただきました。また、自分事として捉え、被害にあわないように注意しなければならぬことを教えていただきました。



活発な意見交換



米沢警察署 桃井義典署長の講話

2月8日～9日 (2025年)

2月

第48回「上杉雪灯籠まつり」

大雪の中での開催となった「雪灯籠まつり」。本会協賛企業からの応援を得て、雪灯籠一基の制作を行いました。吹雪の中での制作となりましたが、今年も多くのお客さんが訪れたおまつりに「小さな親切」の温かい光が灯りました。



制作した雪灯籠の前で

第46回「小さな親切」のつどい

10月



ポスターの表彰



会場の様子



あいさつ運動推進学校の発表



作文の表彰

令和6年度 第49回全国「小さな親切」作文コンクール 入選



親切の輪

米沢市立第四中学校

一年 今岡 あい

小学六年生の冬、左ひざの手術をすることになり、私の心は不安でいっぱいでした。一年以上前から痛みがあり、様子をみていましたが、治療するには手術がなく、冬休みに入るタイミングで入院することになりました。

入院する前日、不安な気持ちで学校最終日を過ごしていました。すると、クラスの皆が寄せ書きをくれました。そこには、私を励ましたり、心をとったあたたかいメッセージが書いてありました。それを読んで私は勇気がでてきました。皆の優しい気持ちと、手術が終わる、入院中とは違って痛みが強くつらくて泣いてしまうことがありましたが、寄せ書きを見て、元気をもらいました。松葉杖の練習がとて大変でしたが、無事に退院できることになり、冬休み中は自宅で治療しました。

三学期が始まる時、また私

の心は不安でいっぱいになりました。まず教室が三階なので階段という大きな壁がありました。リハビリの先生とお尻を使つてのぼり降りする練習をしましたが、少しはづかしい気持ちもありました。

「友達に何か言われるんじゃないかな。」

「みんなに迷惑をかけてしまうかも。」

という思いでいっぱいでした。しかし、そんなことはありませんでした。私が車で登校する時、友達が学校の玄関で待っていてくれました。すぐにかけよってきて、

「大丈夫?」

「ランドセル持つよ。」

と優しい言葉をかけてくれて、とてもうれしかったです。階段を登る時もみんなが道を開けてくれて、はずかしかったですが、心があたたかくなりました。

その後の日常生活でも、移動教室の時、歩く速さを合わせてくれたり、荷物を持つてくれました。

「人はいやいやなんだと実感しました。たくさんの人に支えられた皆さんの迷惑をかけてきたので、今度は、私が支える側になりたいと思いました。人の気持ちをよく考え、小さな親切の輪をどんどん広めていきたいです。」

令和6年度 第49回全国「小さな親切」作文コンクール 入選



地域を支える祖母

米沢市立第五中学校

三年 伊藤 杏音

私の母方の祖母は、今年後期高齢者の年になりましたが、昨年まで現役の看護師として働いていました。五十年以上看護師として働いてきたそうです。そんな祖母も昨年度で現役を引退しました。やはり体力の衰えを感じたこと、もう十分働いたのでこれからゆっくり過ごしたいという思いからなのでしょう。確かに祖母は腰が少し曲がり、膝も痛いと言っていました。以前より長い距離を歩くのがつらくなっていました。ましては家に一人で住んでいるため、母も父もそんな祖母の姿を見ていつも心配しています。

私は校外活動部に所属しており、たびたび市外の練習会場へいかなくてはなりません。両親が仕事で都合がつかないときは祖母の家に泊めてもらったり、練習会場に送迎してもらったりしています。祖母宅にいたるときは、時々電話や訪問で相談にやってくる人がいます。何の相談なのか祖母に尋ねると、地域のお年寄りが医療的なことでわからない

ことがあると、祖母に聞きに来るのだと教えてくれました。先日は祖母の中学の同級生だという人が、自分の血液検査の結果をもって相談に来ていました。私は祖母に「病院へ行けばいいんじゃないの?」と話していましたが、祖母は、「ここはバスも通っていないから、車の運転ができない人は簡単に受診できない。だから、受診したほうがいいのか、受診するならどこに受診する」といのか、相談に来るんだよ。困っている人がいたら助け合っている前。ここは助け合っているんだよ。」と答えました。

私の住んでいる地域では、バスは通っていないけれど乗り合いタクシーがあったり、タクシーを利用しても、高額にならないように医療機関があったりします。しかし、祖母の住んでいる地域では、バスはもちろん通っていないし、乗り合いタクシーなどもなく近くに医療機関もありません。そのため、車の運転が

できない人は高額なタクシー代を払うなど医療費以外にお金がかかるので、祖母に相談しに来るのだそうです。また、医療機関に電話で問い合わせたとしても、自分の思いや、症状を上手に伝えるのが難しいと思う人が多いのも理由の一つのことでした。祖母のどんな人の相談にでも耳を傾け、丁寧に説明している姿に感動しました。

祖母が今の家に嫁いできたのは、五十年前のことです。当時は看護師の仕事に対して偏見を持つ人も多かったそうです。しかし、今ではいろいろな人が祖母を頼ってくるそうです。過疎化が進んでいる今、祖母のような存在が地域の人は支えになっているのだと感じました。

私の住んでいる地域も不便なところが多いので、困っている人がいたら祖母のように、小さなことでも耳を傾け支えていけるような人になりたいと思います。

思いやりの心をひとつに !!

～推進学校・実践協力校の取り組み～

「小さな親切」運動山形県本部では、県内8市町の「小さな親切」支部と連携し、小・中学校を中心に「あいさつ運動」を展開しながら、あいさつの輪が県内隅々まで広がっていくことを願い、あいさつ運動推進学校を依頼しています。令和6・7年度は、米沢市立第七中学校に依頼されています。

また、米沢「小さな親切」の会では、「小さな親切」運動の実践活動を通して子どもたちの豊かな心づくりを推進するとともに地域とのかかわりを深めることを目指して、「小さな親切」運動実践協力校を独自に委嘱しています。令和6・7年度は、米沢市立南原小学校に委嘱されています。

あいさつ運動推進学校（県委嘱）

第七中学校



〈生徒会執行部による朝のあいさつ運動〉

七中では、今年度の生徒会重点目標の1つに「積極的に挨拶をして関わりを深めよう」を掲げ、様々な活動を展開しました。今年度の3つの実践活動を紹介します。

○生徒会執行部による朝のあいさつ運動
この活動は、執行部が先頭に立って全校生の手本となるあいさつをすること、七中のあいさつを活性化させることをねらいに行いました。あいさつ運動を日常的に行うことで、より温かなあいさつになったように感じます。

○部活動ごとのあいさつ運動
この活動のねらいは、自



〈部活動ごとのあいさつ運動〉

分から進んであいさつをする人を増やし、あいさつが飛び交う七中にしていくというものです。この活動を通して、積極的にあいさつをする人が増えたように感じます。

○挨拶
授業前後のあいさつを意識すること、授業に対する意欲を高めるとともに、七中のあいさつの向上につながることをねらいとして活動しました。

これからも生徒会が主体となり、温かなあいさつが誰とでも日常的に飛び交う学校を目指していきたいと思えます。

「小さな親切」運動実践協力校（支部委嘱）

南原小学校



〈そば打ち体験〉

今年度の学校スローガンは「We love 南原（米沢）」です。「小さな親切運動」の取組も、スローガンの実現に向けて日常の学習を通して実践しました。生活科や総合的な学習の時間、生活単元学習を通して南原の「ひと・もの・こと」と関わり、地域を元気にしてきた学年の主な取組を紹介します。

◎1年 スクールボランティアの我妻明先生とサツマイモ栽培や小正月行事「団子さし」などたくさんのお世話に探りました。

◎2年 「町探検」で、里山ソムリエの自然林・南原の駐在所・郵便局・コミセン等、何度も出かけた五感を使って多くの気づきが生まれました。

◎3年 「紅花」をテーマに、最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会の方々とボランティア



〈郵便局へ町探検〉

◎4年 「南原推し活プロジェクト」の実践を通して、地域のよさを改めて調査し、南原のよさをPRマップにまとめて多くの人に発信しました。

◎5年 自分たちで作った人工の田んぼで収穫した米を使ってレシピを開発し、市内のcafé townaで商品化していただきました。

◎6年 SDGsをテーマに、ユニクロの難民に服を届ける活動に取り組みました。公共施設に回収ボックスを設置し古着を世界の難民に届けました。

◎わかさぎ・わかさぎ
「南原大好き！」をテーマに、そば打ち体験・南原の牛や馬との触れ合い・南原アートウォークの見学・雪灯籠作り等、南原が大好きになりました。